夢を広げ 明日を拓く 庄内の教育

ぐるっと庄内

第１０９号 令和8年1月
編集発行 庄内教育事務所 指導課
〒997-1301
東田川郡三川町大字横山字袖東７番１号
TEL0235-68-1982／FAX0235-66-3015

学校サポート訪問の活用ありがとうございました

ご希望いただいた１７校の小・中学校に、合計２６回訪問しました。今年度は、学校のニーズに応じて事前研からのサポートも可能とし、先生方の思いを伺いながら授業づくりについて一緒に検討したり、国や県の方向性をふまえて気づいたことをお伝えしたりしました。

授業づくりについては悩みが尽きませんが、児童生徒に力をつけようと工夫している先生方の熱意にふれ、指導課としても大きな刺激を受けたところです。

今年度のご活用ありがとうございました。

～訪問をとおしてよく話題になったこと～

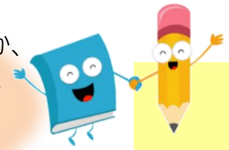
☆単元（本時）で「何を目標としているのか」を児童・生徒と共有しているか。また、活用の場を設定しているか。

☆いつ、どの資質・能力を育成するのか、目標達成に向けた評価規準を明確にし、無理なく計画しているか。

☆「目標（めあて）⇔評価」の整合性がとれているか。目標に対して、学びの手ごたえや自己の変容を感じられる振り返りになっているか。

☆どの程度「わかった・できたか」「どうすると解決できるか」など、自分の学びの状況を理解できているか。

「児童生徒が」学習課題を理解しているか、自分のこととして解決に向かっているか・・・
改めて「児童生徒まん中の授業づくり」を大切にしたいと感じています。



酒田特別支援学校に学ぶ ～幼稚園新採教諭研修会～

11 月 20 日（木）、酒田特別支援学校のご協力を得て、幼稚園新採教諭研修会を行いました。校長先生のお話を伺うとともに、校内を参観させていただき、特別支援教育の視点のみならず、「子どもを見るまなざし」を考える機会となりました。

★「『克服』とは、できないことをできるようにする、という意味もあるが、できることを伸ばしたり活用したりすることでもある」という校長先生の言葉が印象に残っています。できないことに目が行きがちですが、できることを認めていきたいです。

★あいさつやお手伝いなど、当たり前だと思っていたことの大切さを再認識しました。どんな力をつけたいかをしっかりと考え、丁寧にかかわることを大切にしたいです。

★多面的に子どもを見ることができるよう、職員で情報を共有し、同じ方向を向いて支援していきたいです。

日々の保育に奮闘している先生方の、うれしい振り返りです！

～インクルーシブな学校づくりのために～

11 月 25 日（火）、管内から５０名を超える先生方にご参加いただき、第２回庄内特別支援教育研修会を行いました。講師として、学びプラネット合同会社代表　平林　ルミ　氏をお迎えし、「一人ひとりのニーズに応じた合理的配慮と具体的な支援について」をテーマにご講義いただきました。合理的配慮に対する理解を深めるとともに、日々の教育や具体的な支援のあり方について学び、各学校において、チームとして「インクルーシブな学校づくり」を進めることの大切さを改めて考えるきっかけとなりました。

参加の先生方から、様々な学びの感想が寄せられましたので、一部ご紹介します。

どうやったら困り感を減らせるか、不便さや生きづらさを解消できるかなどを、子どもと一緒に対話し、できることから取り組むことが大切だと再確認しました。

できないことを、他のみんなと同じようにできるようにするのではなく、「その子も何らかの形で参加できるようにする」という考え方を大切にしていきたいです。

バリア（参加の壁）があるからといって安易に除去してしまうのではなく、少数派の考えを大切にしながら子どもと対話して、授業への参加の仕方や方法を試行錯誤していきたいと思います。

代替アプローチを活用して「教育の機会均等」「参加する平等を保障する」という考え方を学びました。子どもたち一人ひとりのニーズに対して、よりよい対応を考えていかなければいけないと思いました。

計画指導訪問校に学ぶ Vol.Ⅲ

【庄内町立余目第四小学校】　（　校長　髙橋　和美　）　１２月３日（水）

学校教育目標　**「自ら学び、心豊かで、たくましく生きる子どもの育成」**

（１）学校教育目標の具現のために、今年度の重点である「主体性」「かかわり合う力」の実現をめざして、育成部が具体的かつ焦点化した取り組みを立案し、日常的な実践をもとにＰＤＣＡを回している。
（２）「チーム四小」として若手・ベテランの年代を問わず協働し、課題を共有しながら解決に向けて手立てを講じている。同僚性のあるあたたかい職員集団をベースにした学習指導・生徒指導が展開されている。
（３）登下校の見守り、総合的な学習への支援など、家庭や地域からのあたたかいサポートが教育活動の充実につながっているとともに、学校と地域・保護者の良好な関係が土台となり、児童が安心・安定して生活している。

【鶴岡市立西郷小学校】　（　校長　齋藤　浩一　）　１２月１７日（水）

学校教育目標　**「心豊かで活力ある西郷っ子の育成」**

（１）「子どもも職員も笑顔あふれる学校」をめざし、全職員のチームワークのもと教育活動が展開されている。めざす子ども像「丁寧な子ども」の姿が、落ち着いた学習態度や掲示物、挨拶等に表れている。
（２）「学びのスパイラルアップ」として学び育成部の実践と学校研究を関連付けるとともに、「深い学びの姿」や各教科における「見方・考え方」を明確にすることで、確かな学びの力につなげている。
（３）学校としてつけたい資質・能力を焦点化するとともに、学校のみならず、地域や保護者とも共有することによって、一体的に学校教育目標の具現化を図ろうとしている。